

水土里ネットちば

Chiba Prefectural Federation of Land Improvement Association

農業農村整備100年

ちば水土里 フェスタ

ちば水土里フェスタ実行委員会事務局

2009

100年記念行事
特集号

【号外】

2008年（平成20年）11月5日。千葉市文化センターアートホールに421名の参加者を集めて、農業農村整備100年記念「ちば水土里フェスタ」が開催されました。

ロビーには、大抽選会景品の千葉の農産物を正面に飾って期待感を盛り上げました。また、県内の農業農村整備の歴史や未来へつながる活動などを知ってもらおうと、県内の整備に関わってきた7つの機関が、写真やパネルをロビーの周囲をぐるっと取り巻いて展示しました。

午後1時前から続々と参加者が訪れました。受付で千葉の農産物が当たる抽選券や米粉パン等を受け取ったあと、展示された農産物や農業農村整備の写真を眺めるなどして、賑やかに開会までのひと時を過ごしました。



午後1時30分。女性の司会者の開会で、スライドショーが始まりました。テーマは都市住民の方にわかりやすい「農業用水」です。舞台中央のスクリーンいっぱいに干潟耕地の全景が映し出されました。そして、大利根用水の利根川からの導水路。次に県南部を代表して満々と水と湛えた戸面原ダムの航空写真。「農業に水がどうしても必要なことはどなたもご存知のとおりです。でも、その水がどのようにして田んぼや畑に供給されているのかをご存知の方は、少ないのではないのでしょうか。」「本日は農業に携わっておられない方にとってはあまりなじみのない『農業農村整備』のうち、農業用水の過去、現在、未来にスポットを当てて、皆様にご紹介したいと思います。」女性司会者のナレーションで画面は一転し、昔日の写真が次々に映し出されます。

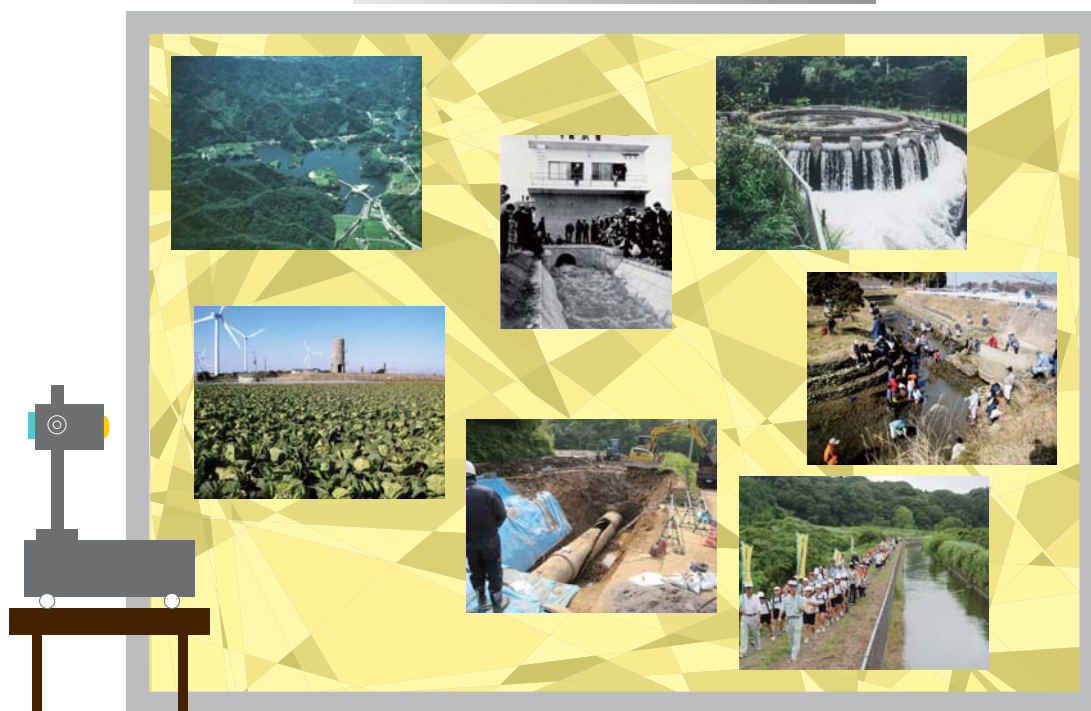
農業農村整備 100年



大干ばつの新聞記事、足踏み式水車、ため池や用水機場、頭首工の旧施設の写真、そして、現在の技術で整備された近代的な施設の状況。「長い年月と多くの費用を掛けて造られた施設も、適正な維持管理は不可欠です。老朽化が進み、改修時期を迎えている水利施設も数多くあります。」老朽化した排水路護岸やすり減ったインペラー、破裂した幹線パイプラインの様子が映し出され、続いて農地・水・環境保全向上対策による地域ぐるみの維持管理作業の様子、そして最後は大利根用水を見学する子供たちの写真で未来に続く期待を込めました。

上映時間は20分。全部で64枚のスライドショーは、水を得ることの労苦と土地改良事業が果たしてきた役割の重要性、そしてそれを農家の人々が維持管理しているということに参加者に訴えることができたのではないかと思います。

SLIDESHOW



さて、舞台が明るくなると、左右に机が置かれています。トークショーの始まりです。このトークショーは、bayfmのネイチャー番組「ザ・フロントストーン」の公開録音を兼ねています。この番組はゲストを招いて自然やアウトドアに関するトークと音楽で構成される1時間番組で、1992年に始まって以来17年も続いている長寿番組です。水土里フェスタの参加者のみならず、放送を通じて広く聴取者にも農業農村整備を知ってもらえるのです。

ちば水土里フェスタ

第1部のゲスト、県北部を代表して干潟土地改良区の菅谷理事長、県南部を代表して天羽土地改良区の齊藤常務理事が登場、やや緊張した面持ちで右手の机に着きました。左手の女性DJがソフトなトーンで語りかけます。「水土里ネットとはどんな団体なんですか？」菅谷理事長が「水土里ネットとは、法律的には土地改良区といいます。」と語り始めました。改良区の役割、「水土里」という名称の由来をわかりやすく説明、続いて干潟耕地の歴史的成り立ちや大利根用水、新川の排水整備の経緯、そして、現在は平成5年度から始まった大区画ほ場整備を実施していることを紹介しました。



「水土里ネット天羽ではこれまでどんなことをやって来られたのですか」の問いかけに、齊藤常務が天羽の位置の説明に続けて「昔からこの地域は水が不足していました。」と切り出しました。昭和10年代には湊川にいくつも用水ポンプが設置されたが、その後も戸面原ダムができるまでは農業用水が決まって不足していたことやダム建設の苦勞、そして、完備した用水施設を活かしたほ場整備の経過を語り、これらの整備により地域が様変わりしたことを説明しました。

DJの「これからはどのようにしていかれるのですか？」に、菅谷理事長は、現在最盛期を迎えている大規模ほ場整備の完成に努力するとともに、地域の特長を活かした安全・安心な食料供給基地を確立していきたいと述べ、齊藤常務は、整備された基盤を武器に人材の育成に努め、また、施設の老朽化や鳥獣害の増加という課題に立ち向かい、農業を守っていききたいと結びました。

両氏は専門用語を避け、一般参加者の方々にもわかりやすいように言葉を選んでお話をされました。スライドショーと合わせて、「農業農村整備」というものを参加した都市住民の方にもわかっていただけたのではないかと思います。



トークショーの第2部は、ゲストにテレビでもおなじみの、「自然暮らしの会」代表清水国明氏を迎え、DJと清水氏の2人でのトークが展開されました。



清水氏は自然暮らしの会の紹介や、その中で子供たちが自然を肌で感じるためのスイッチが入っていないことなどについてユーモアを交えて話した後、ゆくゆくは千葉に引っ越して野菜などを作ってみたいとも語られました。

農業農村整備100年



トークショーが終わると小休止。舞台では最後のお楽しみ「千葉の農産物が当たる大抽選会」の準備が手際よく進みました。



女性司会者がひと際元気な声で抽選会の開始を告げました。賞品には千葉県が推奨する品種で旬のものをそろえました。また、道の駅くりもとからは紅小町10箱のご提供をいただきました。この抽選会は、「いまが旬 ちばの味」をキャッチフレーズとして、本県の農林水産業の魅力を一年間 切れ目なく発信していく「千葉県農林水産業ディスカバーキャンペーン」の一環という位置づけにもなっています。景品ごとにその農産物をスライドで大きく映し出し、司会者の説明により千葉の農産物をPRしてから抽選を行いました。抽選箱から抽選券を取り出す役は、始めは1歳になる国太郎君を抱いて現れた清水国明氏だったのですが、途中からお父さんに代わって国太郎君が取り出し役を務めてくれました。

当選者35名が全員決まり、2時間にわたったフェスタは無事幕を閉じました。

11月16日(日) 23:00 FMの電波に乗って、ちば水土里フェスタの公開録音を編集した「ザ・フロントストーン」が放送されました。女性DJが「農業農村整備100年記念 ちば水土里フェスタ」という枕詞を何回も入れて、ラジオ聴取者に印象付けを行ってくれました。菅谷理事長、斉藤常務理事のトークもバックグラウンドミュージックに乗り、堅い内容がやわらかくなって心地よく聞こえました。そして、時間の制約でカットされた部分はDJが手短かに要約して添えてくれました。「農業農村整備」という言葉を全く聴いたことがない聴取者の耳にも抵抗なく「農業農村整備」が入っていったのではないかと思います。

この時間帯の聴取者は、1万人程度ではないかと、bayfmでは推定しています。

ちば水土里フェスタ開催の主旨は、

『平成20年は耕地整理法制定110周年、水利組合法制定100周年、耕地課100周年、千葉県土連50周年、千葉県畑かん連合会50周年に当たる。

このような節目の年に当たり、過去の足跡を顧みて、現在の位置を確認し、それを土台にして未来への決意を新たにするとともに、これを機に農業農村整備について県民に知ってもらい、理解を深めてもらうため、記念行事と記念事業を実施する。』

ちば水土里フェスタ

というものでした。少しでも多くの人に農業農村整備というものの存在を知ってってもらいたいということが、このイベントの最大の目的でした。電波を利用することで、フェスタの参加者以外の多くの人にもメッセージを伝えることができたのではないかと思います。



ちば水土里フェスタは、千葉県土地改良事業団体連合会、千葉県農村振興技術連盟、千葉県畑地かんがい地区連合会を構成員とする「ちば水土里フェスタ実行委員会」が主催し、千葉県が後援して行われました。

実行委員会が設立されたのは、1年前の平成20年1月24日。設立当時の名称は「『農業農村整備100年の成果と未来を展望する』実行委員会」というやや長いものでした。

このときの設立趣旨には、まだ「県民に知ってもらい、理解を深めてもらう」ことは明記されていませんでした。また、記念行事を行うということだけは決めたのですが、具体的な中身についてはほとんど形が見えていませんでした。2月、3月と検討していく中で、記念行事は「100年を機に関係者以外の県民に農業農村整備というものを知ってもらいたい」という思いが実行委員会に関係する者の共通の思いであることが確認され、これを実行委員会規約の第3条（目的）に追加しました。

記念行事（イベント）を委託したbayfmから「ザ・フリントストーン」という17年も続いているネイチャー番組があるが、その公開録音を兼ねたイベントの企画にしたかどうかという提案があったのは、4月の下旬だったように記憶しています。放送は日曜日の深夜だが、1万人ぐらいい聞いているだろうとのこと。電波を使ってより多くの人に「農業農村整備」を伝えることができる、検討スタッフはこの提案に乗ることにしました。でも、いきなりトークショーが始まったのでは話が見えない。予備知識としてスライドで県内の農業農村整備を見てもらったらどうだろうか。そもそも県民に知ってもらうことが目的なのだから、100年記念のあいさつなどの「式典」は抜きにしよう。オープニングからいきなりスライドを始めたらかどうか。・・・といった具合に内容が急速に具体化しました。実行委員会での企画の承認を得て、検討が進み、プログラムや出演者が決まってチラシの作成に入ったのは8月でした。実行委員会の名称はわかりやすく「ちば水土里フェスタ実行委員会」と改称しました。（裏表紙へ続く）



農業農村整備100年・千葉県土連創立50周年

農業農村整備100年・千葉県土地改良事業団体連合会創立50周年記念式典が、昨年11月5日午後4時30分から、千葉市中央区・京成ホテルミラマールで開催され、関係者約280名が出席のもと、土地改良功労者を表彰するとともに、先人の功績を労い農業農村整備の新たな飛躍を誓い合った。

さらに式典終了後には祝賀会が開かれ、苦労話を語り合うなど記念行事にふさわしい盛り上がりを見せた。

◇平成20年は節目の年

平成20年は農業農村整備にとって、耕地整理法制定110年、水利組合法制定100年の節目の年、また、千葉県土地改良事業団体連合会は創立50周年を迎えた。これを記念して県土連会員はもとより、県土連OBや県OB、関東農政局、全国水土里ネット、千葉県、県議会等、広く関係者を招いて記念行事が盛会に行われた。



菅谷健一 会長

◇会長式辞

八角文雄副会長の開会の辞の後、菅谷健一会長の式辞では「発足から半世紀を振り返ってみると、決して平坦な道ばかりではなかった。今日県土連があるのは先人諸賢のたゆまぬ努力と、関係各位の暖かいご支援とご協力の賜、県土連を代表して敬意と感謝を申し上げる。農業農村を取り巻く環境は、わが国経済の発展とともに著しく変貌し、その時々課題に応じて新たな施策が次々と発表され、これらの実現に向けた多様な事業が展開されてきた。今日の農業は、米の価格低迷に象徴されるように経営的に厳しい局面を迎え、農村社会は耕作放棄地の増加、農業者の高齢化・担い手不足に悩み、水利施設の多くが一斉に老朽化が進み、更新の時期が集中している。国と地方の厳しい財政状況と公共事業の抑制の中で、いかに少ない投資で施設の機能を維持し、長寿命化を図ることができるか、ということが大きな課題となっている。厳しい環境にあるが、農業農村は安全な食料を消費者に安定的に供給するとともに、豊かな自然、美しい景観にあふれた国土の形成など、地域社会に計り知れない貢献を果たしている。今日の繁栄を築き上げてきたのは、先人の方々の情熱と努力の歴史を忘れることはできない。土地改良の歴史を回顧し、本日ここに多数のご来賓や土地改良にかかわられた皆様にご臨席を賜り、農業農村整備100年・県土連創立50周年の節目の年を迎えることは、新たな前進の糧として誠に意義深いものがある。」と述べた。

◇土地改良功労者表彰

会長式辞の後、表彰式が行われ、全土連会長の感謝状を佐藤準専務から受賞者代表の千葉県畑地かんがい地区連合会長中上昭喜氏に授与。また、県土連会長表彰状を菅谷健一会長から代表の夷隅中部土地改良区理事長吉野勝己氏に授与された。

全土連会長感謝状

千葉県畑地かんがい地区連合会
//
野田市木野崎土地改良区
山武郡中央土地改良区
茂原市新治土地改良区
袖ヶ浦市平川東部土地改良区
香北土地改良区

顧問 加藤 和
会長 中上 昭喜
理事長 斉藤 正一
前理事長 (故)小池政信
理事長 常泉 仁
理事長 注連野昌志
総務課長 古林 玄一

千葉県土連会長表彰状

市原市加茂土地改良区田代工区
利根土地改良区
千葉県根木名川土地改良区
佐原市石納野間谷原土地改良区
千葉県干潟土地改良区県営ほ場整備事業清滝Ⅱ期支区
両総土地改良区
両総土地改良区管理委員会茂原支部
夷隅中部土地改良区
南房総市千倉町川戸土地改良区
梶山環土地改良区

工区長 平田 照雄
理事長 鈴木 利男
副理事長 海保 正
理事長 高木 甚一
支区長 石上 二郎
事務局長 鶴崎 勝善
総括監事 立石 隆
理事長 吉野 勝己
理事長 吉田 毅
理事長 本忠 瑞穂 (敬称略)



受賞者のみなさん

(敬称略)

*** 記念式典を開催 ***

水土里ネット千葉 総務部



森英介 法務大臣

◇来賓祝辞

来賓祝辞では、森英介法務大臣（前県土連会長）が、「わが国の食料自給率は40%という低水準で推移している。世界人口が確実に膨張する中、自国の食料自給率を高めることは、わが国の安全保障に深くかかわる重要な問題、土地改良事業はコメ作りや畑作など、農業生産基盤に不可欠な農業用水の安定供給や維持管理を行うことにより、安全な食料を安定的に供給するわが国の農業に大きく貢献している。土地改良関係者の皆様が、土地改良事業の成果や重要性について、消費者にアピールしていくことは、誠に意義深いこと。農業・農村を取り巻く環境は厳しい状況が続いているが、菅谷会長の手腕と、役職員の絶えざる努力により何とかこの難局を乗り切って、千葉県土連の更なる発展を期待する。」と結んだ。

続いて、丸山和彦関東農政局次長、白戸章雄千葉県副知事、浜田穂積県議会議員、佐藤準全土連専務理事が祝辞を述べた。



丸山和彦
関東農政局次長



白戸章雄
千葉県副知事



浜田穂積
千葉県議会議員



佐藤準
全土連専務



豊川忠幸 副会長

◇農業農村整備のあゆみ

式典も終盤に近づいたころ、豊川忠幸副会長が、水利開発と耕地整理の歴史などについて、「総の国の水土とともに」と題したパンフレットにより説明、「人々は棚田や谷津田を拓き、利根川や江戸川・小櫃・養老・夷隅・小糸などの川を治め、緑豊かな豊饒の地としてきた。これは、必ずしも天賦のものでなく、総の国の人々が英知を尽くして農地や用水開発をおこなった賜である。」と熱く語られた。

◇閉会

林和雄理事が出席者に対しお礼を述べ閉会の辞で1時間余の式典の幕を閉じた。



農業農村整備100年 * * * ちば水土里フェスタ

(4ページからの続き)

9月中旬から一斉にイベントの広報を開始。チラシをJRの主要な駅や、市町村等の窓口に置き、bayfmの放送でも開催のPRを流しました。最大の決め手は10月5日号の「県民だより」への開催記事掲載で、翌日からどっと参加申込みのはがきが事務局の県土連に届きました。

スライドショーは、100周年記念写真集のために土地改良区や市町村等から収集した写真の中から選び、ナレーションを加えて突貫作業で完成させました。

こうして迎えた11月5日。多くの皆様に支えられて、ちば水土里フェスタは無事終わりました。そしてその模様を伝えた11月16日bayfmの「ザ・フロントストーン」で更に多くの人に「農業農村整備」を伝えることができました。

この記念行事にご支援、ご協力くださいました多くの方々に、紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

写真展示者 (展示順)



- ・水土里ネット千葉
- ・千葉県
- ・千葉県畑地かんがい地区連合会
- ・関東農政局両総農業水利事業所
- ・関東農政局北総中央農業水利事業所
- ・(独)水資源機構千葉用水総合事業所
- ・(独)森林総合研究所森林農地整備センター
安房南部建設事業所

大抽選会賞品



- ★新米(ふさがね) …… 5 kg 5名
- ★さといも(ちばまる) …… 3 kg 5名
- ★さつまいも(紅アズマ) …… 3 kg 5名
- ★なし(王秋) …… 3 kg 5名
- ★ダイヤモンドポーク …… 400 g 5名
- ★さつまいも(紅小町) …… 3 kg 10名

水土里ネットちば 2009号外 (平成21年2月23日発行)



発行

水土里ネット千葉(千葉県土地改良事業団体連合会)
〒261-0002 千葉市美浜区新港249番地5
TEL.043-241-1711?/FAX.043-248-2563?

印刷

株式会社ニッセイアド
〒264-0026 千葉市若葉区西都賀4-18-3
TEL.043-206-7752/FAX.043-206-7753